

乳幼児を育てる父親と母親の育児中に経験する感情と 育児信念に関する研究

近藤由以子¹ 中村 真理²

本研究は、乳幼児を育てる父親と母親の育児中に経験する感情と育児信念の特徴を明らかにすることを目的とし、育児中に経験する9項目のネガティブな感情、7項目のポジティブな感情、さらに6項目の育児信念について半構形式自由記述による質問紙調査を行った。

その結果、育児中に経験する感情の頻度は、父親と母親はほぼ同様な傾向を示し、ネガティブな感情は、「疲れ」、「イライラ」が多く、「悲しみ」、「むなしさ」は少なかった。一方、ポジティブな感情は、「愛情」、「喜び」が多く、「同情」、「誇り」は少なかった。

ネガティブな感情とポジティブな感情を経験する事情内容は、それぞれ13項目に分類でき、そのうち「子の行動」、「自分の育児行動」など11項目は共通した項目となった。また、ネガティブな感情特有の項目である「自分の育児への批判」は、特に父親の記述が多く、「社会からの孤立」は、母親のみ記述があった。一方、ポジティブな感情特有の項目である「家族の存在」、「同居外の親族の存在」は、特に母親の記述が多かった。

育児信念は、父親と母親は同様な傾向を示し、賛成が過半数を示した項目は「価値」、「無償」、「頻度」であった。また、賛否に関わらず、育児信念に対する不変性は全項目において、「変わらない」と回答した割合が多かった。

これらのことから、育児中に経験する感情の頻度や育児信念は、父親と母親は類似した傾向が認められた。しかし、それぞれの感情を経験する事情内容に注目すると、父親は自らの育児行動を周囲に認めてもらえないことでジレンマを抱えやすく、母親は育児を一人で専念することで孤立感を抱えやすいことが示唆された。一方で、自分と子の二者関係ではなく、他者の肯定的な関わりがあることで、育児中にポジティブな感情を得る経験が増える可能性も示唆された。

キーワード：乳幼児, 父親, 母親, 育児中の感情, 育児信念

問題と目的

核家族や夫婦共働きにより、日本の育児環境は変化しつつあり、これまで、多数の育児ストレスについての研究が行われてきた。母親を調査対象とした研究について、日本労働研究機構(2003)は、母親の就労の有無に関わりなく9割の母親が育児にストレスや不安を感じており、4割の母親が育児ノイローゼや産後うつではないかと思った経験があると報告した。また、村上・飯野ら(2005)は、母親の育児ストレス構造は「夫の育児態度に関する不満」「育児の理想と現実に対する不安」「子どもの発達に対する懸念」「体調と周囲との調整困難」「育児環境の不備に対する不満」「アイデンティティ喪失に対する脅威」「子どもに対するコントロール不可能感」という7因子があると報告した。そして、尾形・宮下(2003)は、父親の協力的関わりは母親の精神的ストレスや育児行動に直接的な影響を与えているのではなく、母親の認知する夫婦関係のあ

りように影響を与えることで、精神的ストレスに影響を与えると報告した。また、岡本・中村ら(2002)は、父親の育児参加は「母親自身の健康」「疲労感」「父親からの精神的支え」と特に有意な関連があることを述べ、父親の育児参加の重要性を示唆した。さらに、西尾(2015)は、母親の育児ストレス低減のための父親の育児行動は、子どもに対する直接的支援より、母親に対する間接的支援の方が有効であるということを報告した。

一方、父親を調査対象とした研究について、内閣府大臣官房政府広報室(2002)による「男性のライフスタイルに関する世論調査」では、10年前よりも家庭を重視する男性の割合が増え、特に、子どもの教育についても積極的または、ある程度積極的に関わるべきと答える割合が約9割を占め、男性側の育児に対する関心が増えてきていることを明確化した。また、岡本・中村ら(2002)によると、父親自身が子どもの頃から性別役割分業型社会の中で育ったため、育児や家事の学習から遠ざかっていることを挙げる一方、保健所の育児グループ会員を調査対象とした研究の中で、育児に関することを何もしない父親は5%弱であり、ほ

1 東京成徳大学大学院心理学研究科

2 東京成徳大学

とんどの父親は何らかの育児参加を行っていた。しかしながら、内閣府広報室による「男女参画社会に関する調査」(2016)によると、生活の中での希望優先度について、男性、女性ともに家庭生活が最優先であると挙げているが、現実の優先度は男性は仕事、女性は家庭生活となっており、男性側は家庭・育児に対する関心はあるが、実現できていない状態といえる。そして、父親の育児ストレスに関する研究では、清水(2006)は、父親の育児ストレスには、「子どもや育児に関するもの」「育児環境に対するもの」「子ども・妻・自分といった人に関するもの」といった3分類があるとし、さらに、父親は母親に比し、子育てを中心的に担っていることが少なく、母親をサポートしながら子どもの発達を捉えるため、「心配や不安」を中心としたストレスを抱えやすく、「不満」を中心としたストレスは少ないことを報告した。ストレスだけではなく、育児中に経験する様々な感情についての研究では、清水(2006)は、育児に対する考えとその強さ(不変性)を「育児信念」として捉え、父親は育児信念が強いほど育児に関する不安傾向が高まることを明らかにし、父親の育児信念と感情との関係性を示唆し、清水(2003)が母親を対象に行った育児信念に関する調査結果とほぼ同じ傾向があると報告した。さらに、清水(2008)は、育児中に感じる肯定的な感情を「育児幸福感」として捉え、父親は育児信念と育児幸福感は弱い相関を示したと報告した。

これまでの研究では、母親または、父親のみを調査対象者として行っているものが多い。また、厚生労働省(2016)の報告では、育児休暇取得率は、2005年では女性は70.6%、男性は0.50%、2015年では女性は81.5%、男性は2.65%と緩やかではあるが上昇傾向にあり育児環境は変化している。以上のことから、本研究では、父親と母親を対象に、育児中の感情および育児信念について調査を行う。

方 法

1. 研究デザイン

半構形式自由記述による質問紙調査法を用いる。

2. 調査対象者

乳幼児を育てる父親と母親である。父親用質問紙、母親用質問紙を各1部ずつを1セットとして、91部配布し、回収は父親用質問紙49部(回収率53.8%)、母親用質問紙52部(回収率57.1%)であった。

3. データの収集方法

下記の調査内容から構成される質問紙調査を知人を介して配布し、郵送にて回収した。調査期間は、平成29年8月～11月である。

4. 調査用紙の内容

(1) フェイスシート項目：年齢、子どもの人数とその児の年齢、同居者の構成、夫婦の会話頻度、就業状況。

(2) 育児中に経験する感情の頻度とその具体的な事情内容

育児中に経験するネガティブな感情として「不安」「恐怖」「心配」「怒り」「イライラ」「疲れ」「悲しみ」「むなしさ」「不満」の9項目、ポジティブな感情として「安心」「希望」「愛情」「喜び」「感謝」「同情」「誇り」の7項目、計16項目の感情について、その感情を経験する頻度について5段階(いつもある・よくある・たまにある・あまりない・まったくない)で回答する。加えて、それぞれの感情がどのような事情の時に生じるかを自由記述法によって回答する。

(3) 育児に対する信念とその不変性：信念とは一般的には「理屈を超えて固く信じ込むところ」とされており、本研究では清水(2006)に準じ、育児信念を育児に対する考えとその不変性と捉え、「子どもに対して完璧な親でなければならない(以下、完璧)」「親とは、子どもに対して無償の愛を与えるものだ(以下、無償)」「子どもが良く育つも悪く育つも100%親の努力にかかっている(以下、努力)」「子育ては私にとって価値がある(以下、価値)」「子育ては女の仕事である(以下、役割)」「親は子どもに対して愛情をいつも抱いているものだ(以下、愛情)」の6項目より、育児信念の基本概念として考えられる態度、努力、価値、役割、愛情を検討した。育児信念に対する考えに関して、賛成または反対を選択し、さらにその考えの不変性を5段階(絶対変わらない・多分変わらない・わからない・多分変わる・絶対変わる)で回答する。

5. 倫理的配慮

本研究に先立ち、研究目的、方法、意義、守秘義務、研究の協力および協力拒否、中断が可能であることなどを記載した文書を、調査用紙に同封し、配布した。情報は、特定の個人情報漏洩しないようコード化し取り扱う。なお、本研究は東京成徳大学大学院心理学研究科の研究倫理審査において承認されている(承認番号17-1-12)。

6. データの分析方法

夫婦の会話頻度は、5段階(いつもする・よくする・たまにする・ほとんどしない・全くしない)で評価した。育児中に経験する感情の頻度は「ある(いつもある・よくある・たまにある)」または「ない(あまりない・まったくない)」で評価した。また、育児中に経験するそれぞれの感情が起こる具体的な事情は、なるべく抽象度を統一するよう留意しながら、一つの内容を意味する記述文に整理した。

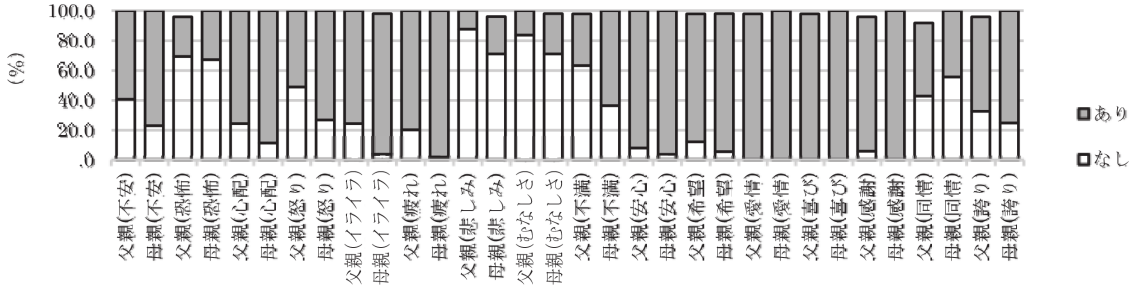


Figure1 父親と母親の育児中に経験する感情の頻度

育児信念に対する考えは「賛成」または「反対」で評価した。さらに、その考えの不変性を「変わらない(絶対変わらない・多分変わらない)」または「変わる(多分変わる・絶対変わる)」で評価した。なお、得られたデータの分析にはSPSS(ver.19)を用いた。

結 果

1. 対象者の属性

父親の平均年齢は35.8±5.0歳(最大46歳、最小27歳)、母親の平均年齢は34.5±5.3歳(最大46歳、最小26歳)であった。

子どもの数の平均は1.3人、家族形態は、96.3%が核家族であった。

夫からみた妻との会話頻度は、49人中「いつもする」が29人(59.1%)、「よくする」が17人(34.7%)、「たまにする」が3人(6.1%)、不明が1人(2.0%)だった。一方、妻からみた夫との会話頻度は、52人中「いつもする」が27人(51.9%)、「よくする」が17人(32.7%)、「たまにする」が6人(11.5%)、「ほとんどしない」が1人(1.9%)であった。

就業状況は、父親は49人中、49人(100%)全員がフルタイムであった。一方、母親は52人中12人がフルタイム(23.1%)、12人がパートタイム(23.1%)、専業主婦が25人(48.1%)、学生が2人(3.8%)、不明が1人(1.9%)であった。

2. 育児中に経験する感情の頻度 (Figure1)

(1) 父親のネガティブな感情

父親のネガティブな感情の中で「ある」と最も多く回答を得た項目は、「疲れ」の39人(79.6%)であり、次いで、「イライラ」・「心配」が37人(75.5%)、「不安」が29人(59.2%)、「怒り」が25人(51.0%)、「不満」が17人(34.7%)、「恐怖」が13人(27.7%)、「むなしさ」が8人(16.3%)、「悲しみ」が6人(12.2%)であった。

(2) 父親のポジティブな感情

父親のポジティブな感情の中で「ある」と最も多く回答を得た項目は、「愛情」・「喜び」の48人(98.0%)であり、次いで「安心」が45人(91.8%)、「感謝」が44人(91.7%)、「希望」が42人(87.5%)、「誇り」が

31人(63.3%)、「同情」が24人(49.0%)であった。

(3) 母親のネガティブな感情

母親のネガティブな感情の中で「ある」と最も多く回答を得た項目は、「疲れ」の51人(98.1%)であり、次いで「イライラ」が49人(94.2%)、「心配」が46人(88.5%)、「不安」が40人(76.9%)、「怒り」が38人(73.1%)、「不満」が33人(63.5%)、「恐怖」が17人(32.7%)、「むなしさ」が14人(26.9%)、「悲しみ」が13人(25.0%)であった。

(4) 母親のポジティブな感情

母親のポジティブな感情の中で「ある」と最も多く回答を得た項目は、「愛情」・「喜び」・「感謝」が52人(100%)と全員が該当し、次いで「安心」が50人(96.2%)、「希望」が48人(92.3%)、「誇り」が39人(75.0%)、「同情」が23人(44.2%)であった。

(5) 父親と母親の感情の比較

父親と母親の育児中に経験する感情を、頻度の多い順序でまとめた。

ネガティブな感情の頻度について、父親と母親は同様の傾向を示し、両者ともに最も多かった感情は「疲れ」であり、次いで「イライラ」となり、加えて父親は同率で「心配」が挙げられた。一方、両者ともに最も少なかった感情は「悲しみ」であり、次いで「むなしさ」となった。

ポジティブな感情の頻度について、父親と母親はほぼ同様の傾向を示した。両者ともに最も多かった感情は「愛情」・「喜び」であり、加えて母親は同率で「感謝」が挙げられた。一方、両者ともに最も少なかった感情は「同情」であり、次いで「誇り」となった。

次に、父親と母親では、それぞれの感情を経験する頻度に有意差が生じるか、Pearsonの X^2 検定を用いて検討した。ネガティブな感情を経験する頻度は、父親と母親では「疲れ ($X^2=8.882, df=1, p<.01$)」、「イライラ ($X^2=8.781, df=1, p<.01$)」、「不満 ($X^2=5.230, df=1, p<.01$)」に有意な差を認めた。一方、ポジティブな感情を経験する頻度は、父親と母親ではいずれの

Table1 父親と母親のネガティブな感情別の事情件数

No	事 情	不安		恐怖		心配		怒り		イライラ		疲れ		悲しみ		むなしさ		不満		合計 (件)
		父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	
1	子の行動	1	1	5	6	9	2	15	23	20	26	3	11	5	8	0	6	3	4	148
2	子の成長・将来	0	10	0	0	1	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
3	子の存在・健康	9	18	3	13	14	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65
4	自分の育児行動	6	16	1	3	1	7	2	3	1	0	9	17	1	5	8	1	0	2	83
5	自分の行動・健康・存在	2	0	1	1	1	0	1	4	0	6	2	6	0	6	2	2	2	5	41
6	自分の育児への批判	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	6
7	パートナーの存在・行動	0	0	0	0	0	0	1	2	1	5	0	2	0	0	0	0	0	9	20
8	パートナーの育児行動	2	0	0	0	1	0	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	0	7	17
9	夫婦での育児行動	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
10	社会からの孤立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	4
11	育児と家事・仕事などの両立	0	1	0	0	0	1	0	0	0	4	9	11	0	0	0	1	0	1	28
12	育児環境・社会の対応	1	2	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	3	14
13	安定した暮らし	2	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
	合計 (件)	24	50	10	25	29	34	21	37	23	43	23	47	7	20	11	14	9	32	459

項目も有意な差は認められなかった。

少なかった。

3. 育児中に経験する感情の各事情件数と事情項目 (Table1, 2)

(1) 父親のネガティブな感情を経験する事情件数

父親のネガティブな感情を経験する事情の自由記述の件数は「心配 (29件)」が最も多く、次いで、「不安 (24件)」、「イライラ (23件)」、「疲れ (23件)」、「怒り (21件)」、「むなしさ (11件)」、「恐怖 (10件)」、「不満 (9件)」となり、「悲しみ (7件)」が最も少なかった。

(2) 父親のポジティブな感情を経験する事情件数

父親のポジティブな感情を経験する事情の自由記述の件数は「安心 (28件)」が最も多く、次いで、「愛情 (27件)」、「喜び (26件)」、「希望 (25件)」、「感謝 (21件)」、「同情 (14件)」となり、「誇り (13件)」が最も

(3) 母親のネガティブな感情を経験する事情件数

母親のネガティブな感情を経験する事情の自由記述の件数は「不安 (50件)」と最も多く、次いで、「疲れ (47件)」、「イライラ (43件)」、「怒り (37件)」、「心配 (34件)」、「不満 (32件)」、「恐怖 (25件)」、「悲しみ (20件)」となり、「むなしさ (14件)」が最も少なかった。

(4) 母親のポジティブな感情を経験する事情件数

母親のポジティブな感情を経験する事情の自由記述の件数は「感謝 (70件)」が最も多く、次いで、「安心 (58件)」、「愛情 (57件)」、「喜び (50件)」、「希望 (42件)」、「誇り (32件)」となり、「同情 (21件)」が最も少なかった。

Table2 父親と母親のポジティブな感情別の事情件数

No	事 情	安心		希望		愛情		喜び		感謝		同情		誇り		合計 (件)
		父	母	父	母	父	母	父	母	父	母	父	母			
1	子の行動	8	14	6	0	11	21	5	9	0	8	6	6	5	1	100
2	子の成長・将来	4	4	17	39	2	6	15	28	0	0	2	1	0	1	119
3	子の存在・健康	5	1	1	0	6	18	4	7	8	18	0	1	0	15	84
4	自分の育児行動	0	0	0	0	0	3	0	1	0	0	0	0	2	9	15
5	自分の行動・健康・存在	0	0	0	1	5	0	0	2	0	0	0	0	3	0	11
6	パートナーの存在・行動	2	9	0	0	1	1	0	0	4	13	0	2	0	0	32
7	パートナーの育児行動	2	4	0	0	0	0	0	0	7	10	5	2	1	1	32
8	夫婦での育児行動	0	1	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	5
9	家族の存在・行動・成長	6	14	0	2	2	8	1	2	0	1	0	0	0	1	37
10	同居していない家族の存在・行動	0	3	0	0	0	0	0	0	1	12	0	1	0	1	18
11	育児環境・社会の対応	0	6	0	0	0	0	0	0	0	8	1	8	0	0	23
12	育児と家事・仕事などの両立	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4
13	安定した暮らし	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	合計 (件)	28	58	25	42	27	57	26	50	21	70	14	21	13	32	484

(5) 育児中に経験する感情の事情内容

自由記述の内容を分析した結果、育児中のネガティブな感情およびポジティブな感情を経験する事情はそれぞれ13項目に分類できた。

ネガティブな感情とポジティブな感情の両者に同様に挙げられた項目は11項目あり「子の行動」「子の成長・将来（以下、子の成長）」「子の存在・健康（以下、子の存在）」「自分の育児行動（以下、自分の育児）」「自分の行動・健康・存在（以下、自分の存在）」「パートナーの存在・行動（以下、パートナーの存在）」「パートナーの育児行動（以下、パートナーの育児）」「夫婦での育児行動」「育児環境・社会の対応（以下育児環境）」「育児と家事・仕事などの両立（以下、育児との両立）」「安定した暮らし」であった。また、ネガティブな感情だけに挙げられた項目は「自分の育児への批判」「社会からの孤立」であった。一方、ポジティブな感情だけに挙げられた項目は「家族の存在・行動・成長（以下、家族の存在）」「同居していない家族の存在・行動（以下、同居外親族の存在）」であった。

ネガティブな感情に関する父親と母親の自由記述の合計件数の中で、最も多かった項目は「子の行動（148件）」であり、次いで「自分の育児（83件）」となり、最も少なかった項目は「夫婦での育児行動（2件）」であった。

ポジティブな感情に関する父親と母親の自由記述の合計件数の中で、最も多かった項目は、「子の成長（119件）」であり、次いで「子の行動（100件）」となり、最も少なかった項目は「育児との両立（4件）」・「安定した暮らし（4件）」であった。

4. 育児中に経験する感情の各自由記述の内容

(1) 父親と母親のネガティブな感情に関する自由記述の内容（Table3）

「不安」では父親、母親ともに「子の存在」、「自分の育児」に関する記述が多かった。「子の存在」では、子の病気やケガへの不安が多かった。「自分の育児」では、自分は正しく育児が出来ているかという不安が多く、加えて、この項目における母親に特徴的な記述として、緊急時の子の預け先に関する不安もあった。一方で、母親のみ記述が多かった項目は「子の成長」で、子の学習面への不安が多かった。

「恐怖」では、父親、母親ともに「子の行動」に関する記述が多く、子の突発的な行動に対する恐怖であった。加えて、特に母親の回答に多い傾向があったが、父親、母親ともに「子の存在」に関する記述も多く、病気やケガに対する恐怖もあった。さらに、母親のみ記述が多かった項目は「自分の育児」であり、自分が子を育てられるかという恐怖が多かった。

「心配」では、特に父親の回答に多い傾向があったが、父親、母親ともに「子の行動」、「子の存在」に関する

記述が多かった。「子の行動」では、子と他者との関わりについての心配であった。次に、「子の存在」では、病気やケガに対する心配が多かった。また、母親のみ記述が多かった項目は「子の成長」、「自分の育児」であり、両項目ともに我が子の成長を育児本や周りの子と比較したことで経験する心配が多かった。

「怒り」、「イライラ」、「疲れ」ではおおよそ類似した記述であった。特に、父親、母親ともに「子の行動」に関する記述が多く、子の拒否行動に対する、怒り・イライラ・疲れであった。また、母親のみ記述が多かった項目は「自分の行動」であったが、いずれの感情においても、その内容にはばらつきがあった。次に、「イライラ」、「疲れ」では、父親、母親ともに「育児との両立」に関する記述が多かった。また、「イライラ」、「疲れ」では、特に母親に多い記述として、「パートナーの行動」があり、父親のマイペースさに対するイライラ、疲れがあった。さらに「疲れ」では、父親、母親ともに「自分の育児」に関する記述が多く、育児中の自分自身の体力が持続しないために生じる疲れが多かった。

「悲しみ」では、父親、母親ともに「子の行動」に関する記述が多く、子が他者との関わりの中で経験した出来事についての悲しみが多かった。また、母親のみ「自分の育児」、「自分の行動」への記述が多かったが、その内容にはばらつきがあった。

「むなしさ」では、母親のみ「子の行動」、「社会からの孤立」に関する記述が多かった。「子の行動」では、作った食事を子が食べてくれないなど、自分が子のために行った事が否定された経験についての記述が多かった。また、「社会からの孤立」では、働けないことや話し相手の不在によるむなしさが多かった。一方、父親のみ記述が多かった項目は「自分の育児」であり、育児の時間を確保できないことへのむなしさが多かった。

「不満」では、母親のみ「パートナーの存在」、「パートナーの育児」に関する記述が多く、パートナーの日常の行動や育児行動への不満が多かった。一方で、少数ではあるが父親のみ記述を得た項目として「自分の育児批判」があり、妻・同僚から自分の育児を否定されることへの不満があった。

(2) 父親と母親のポジティブな感情に関する自由記述の内容（Table4）

「安心」では、父親、母親ともに「子の行動」、「家族の存在」に関する記述が多かった。「子の行動」では、父親、母親ともに子の寝顔や笑顔をみたときや、子が自分やパートナーのそばにいることへの安心が多かった。「家族の存在」では、家族と一緒に過ごすことへの安心が多かった。母親のみ記述が多かった項目は「パートナーの存在」、「同居外親族の存在」、「育児

Table3 ネガティブな感情別の自由記述内容

No	事 情	件数	不 安
1	子の行動	父 1	子どもが不安なく過ごせるか。
		母 1	子がケンカをしたとき、その訳を聞く前。
2	子の成長・将来	父 0	
		母 10	心身共に年齢相応の発達をするか。きちんとした子に育つか。田舎に住んでいるが、将来学力が上がるか。触れ合う事が少ないため教育がどこまでできるか。子が正しく育ってくれるか。
3	子の存在・健康	父 9	子が病気やケガをしないか。基準がわからず、子が順調に成長しているかどうか分からないとき。泣き止まないとき、具合が悪いのかと不安になる。失くし物があつたとき誤飲したのではと思う。
		母 18	子が病気やケガをしないか。子のアレルギー。子の高熱が下がらないとき。子が体調不良のとき。子がいつもと行動が違う、泣き止まないなどから体調不良なのか不安になる。子の突発的な行動を見て、ケガをしないか不安になる。
4	自分の育児行動	父 6	叱り方がわからない。自分の関わり方が子の成長に与える影響が気になる。一人で子を見ている時、きちんと対応できているか。性別が違う子の育て方がわからない。ワガママや汚い言葉を使った時に、真つすぐ成長するかな、と思う。
		母 16	頼れる人が居ない時に、母子共に体調を崩したとき、自分の子育て方法がこれでよいのか。子への関わり方がこれでよいか。自分のつけ方。年齢や性格に合った育児ができてくるか。第一子を育てるときは手探り状態で特に不安がある。今の大変な育児が、これからずっと続くのかという不安。なぜ子が泣いているか分からないとき。子の発熱時、預け先が見つからないとき。
5	自分の行動・健康・存在	父 2	子どもが大きくなるまで健康でいられるか。自分と子の就寝のタイミングが違うと、思うように睡眠がとれない。
		母 0	
8	パートナーの育児行動	父 2	妻が子にキレているとき。妻の疲れた表情を見たとき。
		母 0	
9	夫婦での育児行動	父 1	妻と子育て方法に関して意見が相違があつたとき。
		母 0	
11	育児と家事・仕事などの両立	父 0	
		母 1	このまま仕事を続けていけるか、辞めると保育園を退園しなければなら解決策が見つからない。
12	育児環境・社会の対応	父 1	子と同性代の事件や事故をニュースを見たとき。
		母 2	連れ去りやわいせつなど子に関わる事件の話を聞いたとき。
13	安定した暮らし	父 2	仕事の行先や収入が今後も保障されていないので、子の教育など家計を考えたとき。今後について。
		母 2	金銭的な問題。将来について。

No	事 情	件数	恐 怖
1	子の行動	父 5	急に走り出したり、突発的な行動をするとき。目を離した時に、危ない行動をとっていたとき。子の好奇心に対して。
		母 6	急に走り出したり、突発的な行動をするとき。外出時迷子になったとき。家で目を離した隙にベランダなどにいたとき。
3	子の存在・健康	父 3	子の病気やケガ。
		母 13	子の病気やケガ。子が高熱が出たとき。持病の発作が起きないか。就寝時いつもと様子が違ったとき。
4	自分の育児行動	父 1	落とさないように抱っこするとき。
		母 4	感情的怒ってしまった時、実母に似ていると感じたとき。一人で育児をしているとき、育てられるか。自分が子に与える影響を考え、1人の人間を育てる責任について考えたとき。
5	自分の行動・健康・存在	父 1	自分自身の事故やケガ。
		母 1	自分も死んでしまったらこの子はどうなるのかと思う。
12	育児環境・社会の対応	父 0	
		母 2	子どもが巻き込まれる事件を見て、怖いと思う。

No	事 情	件数	心 配
1	子の行動	父 9	家族の輪に入っていないとき。外出時基本的に手をつないでいるが、迷子にならないか。ワガママや汚い言葉を使ったとき。きちんと友達ができ、いじめられていないか。他の子にケガをさせていないか。人前が苦手なところ。幼稚園や学校で友達をこれから作れるかどうか。
		母 2	友達と楽しく過ごしているか。保育園の転園で上手くなじめるか。園に行きたがらないとき。寂しい思いをしていないか。
2	子の成長・将来	父 1	平均体重未満なこと。
		母 14	育児書に書かれてことより発達が遅れていると不安になった。他の子と比べて発達が遅いと不安になる。子供の成長度。
3	子の存在・健康	父 14	病気やケガをしないか。アレルギーがあること。うつぶせに寝て呼吸が止まっていないか。泣き止まないとき具合が悪いのかと思う。ストレスが溜まっていないか。子の心理面。
		母 8	ケガをしないか、事故に巻き込まれないか。体調がいつもと違うとき。心も体も健康かどうか。肌荒れがあつたとき。アレルギーがわかつたとき。熱性けいれんを起こさないか。
4	自分の育児行動	父 1	自分が父親としてしっかりしないと自問自答したとき。
		母 7	子育ての仕方が周りや違つたとき。育児本と違つた時。愛情を注いでいるが、感じてもらえているか。人に預けて外出する際。関わり方がこれでよいのか。
5	自分の行動・健康・存在	父 1	自分自身が心配性なため。
		母 0	
8	パートナーの育児行動	父 1	妻が病気やケガ、ストレスを抱えていないか。
		母 0	
11	育児と家事・仕事などの両立	父 0	
		母 1	自分の職場復帰について。

乳幼児を育てる父親と母親の育児中に経験する感情と育児信念に関する研究

No	事 情	件数	心 配
12	育児環境・社会の対応	父	0
		母	2 保育園に入れるかどうか。預け先がみつからない。
13	安定した暮らし	父	2 将来の漠然とした心配。
		母	0

No	事 情	件数	怒 り
1	子の行動	父	15 子が度が過ぎるいづらをしたとき。子の暴力的な行動。言う事をきかないとき。大声で泣き続けたとき。子が約束を守らなかったとき。イヤがふえたとき。子と意見が合わなかったとき。子が人を選んだ態度に出すとき。子同士が兄弟喧嘩をするとき。
		母	23 言う事を聞かないとき。子がマイペースなとき。作った食事を食べないとき。自分の睡眠を邪魔してくるとき。いやいや期。お店の商品を食べたとき。攻撃的なとき。兄弟げんかをするとき。片づけをしないとき。予想外のイタズラをするとき。危険なことをしたとき。
4	自分の育児行動	父	2 子と接する時間が足りないこと。冷静に叱るようにしているが、やってはいけない事をした時に怒りのコントロールが難しい。
		母	3 子に上手く言葉がけができないとき。思い通りに子育てが進まないとき。寝不足の中、子がぐずるとき。
5	自分の行動・健康・存在	父	1 仕事で子と就寝時間が合わず、自分の睡眠時間がないとき。
		母	4 イライラする自分に怒りを感じる。自分だけが大変という気持ちになるとイライラから怒りに変わる。時間がない。ホルモンバランスの変化で怒りっぽくなる。
6	自分の育児への批判	父	2 自分の育児方法を会社の人に認めてもらえないとき。自分では育児に参加していると思っても、全く足りていないと言われたとき。
		母	0
7	パートナーの存在・行動	父	1 妻の不遜な態度にたいして。
		母	2 夫が自分の気持ちを理解してくれない。余裕がない時に、思い通りにならないときに夫に抱く。
8	パートナーの育児行動	父	0
		母	5 自分が育児家事中に、夫がゲームをしているとき。夫が積極的に育児に参加してくれないとき。夫の優先度が育児より自分のとき。

No	事 情	件数	イライラ
1	子の行動	父	20 言うことを全く聞かなくなるとき。いやいや期のとき。ワガママが続いたとき。気持ちが伝わらないとき。泣き止まないとき。子がマイペースなとき。なかなか寝てくれないとき。公共の場で子がぐずるとき。自宅をきれいにしても散かすとき。まだ寝てほしいのに、うるさいとき。
		母	26 朝急いでいる時にいう事をきかないとき。計画立てて家事をしても子に妨害されるとき。兄弟喧嘩になり予定に間に合わないとき。怒りと同じく、いう事をきかないとき。朝の行動のマイペースな様子。いやいや期のとき。ご飯をたべないとき。掃除をしても散かしてくる。寝付かないとき。
4	自分の育児行動	父	1 子どもの喜怒哀楽自分が理解できないとき。
		母	0
5	自分の行動・健康・存在	父	0
		母	6 自分に余裕がないとき。自分一人の時間がない。生理が再開して怒りっぽくなった。寝不足なため。
6	自分の育児への批判	父	1 自分の子育てに会社の人が認めてくれないとき。
		母	0
7	パートナーの存在・行動	父	1 妻がイライラしているとき。
		母	5 夫のマイペースさに対して。夫のダラダラした言動に対して。夫に自分の気持ちが伝わらない。
8	パートナーの育児行動	父	0
		母	1 夫の優先度が育児より自分のこと。
11	育児と家事・仕事などの両立	父	0
		母	4 自分の予定や仕事との両立。
12	育児環境・社会の対応	父	0
		母	1 保育園に入れない。

No	事 情	件数	疲 れ
1	子の行動	父	3 なかなか寝付かない。夜泣きをされたとき。
		母	11 兄妹ゲンカになったとき。子がマイペースなとき。何度注意しても繰り返してもいう事をきかない。家事の最中に子に呼ばれるとき。
4	自分の育児行動	父	9 自分と子の体力の差を感じたとき。一人で子の面倒をみる時。子と土日外に出歩くようになったから。外出時子から目が離せないから。時間の感覚が子と自分で異なるから。長時間の育児。
		母	17 夜中の授乳。子より早く起きるから。常に睡眠不足で生活リズムが乱れる。育児家事で常に動いているから。長時間遊んでると体力がもたない。
6	自分の行動・健康・存在	父	2 仕事で疲れる。
		母	6 予定が詰まっているとき。自分の時間が全く持てない。イライラしたとき怒らないようにすると疲れる。体力がいる。
7	パートナーの存在・行動	父	0
		母	2 夫の時間を作ってあげようと子と外出した際、帰宅後家事をしていてくれるわけではない。夫が片づけをしない。
11	育児と家事・仕事などの両立	父	9 仕事と育児の両立。仕事後に、スキンシップや寝かしつけをするから。
		母	11 仕事と育児の両立。仕事から帰宅後やることが多い。

No	事 情	件数	悲 し み
1	子の行動	父	5 子が友人と比較し劣等感をもったとき。子が他の子に意地悪をされたとき。子がコミュニケーションがうまく取れていないとき。作ったご飯を食べしてくれないとき。
		母	8 思いやりのない言葉を兄妹で話しているとき。子をしかった時に、否定的な言葉と言ってきたとき。子が悲しい思いをしたとき。子が悲しい思いをした時に、そのことを話してくれなかったとき。言う事を聞かないとき。

4	自分の育児行動	父	1	子がやっではいけないをし、自分の育児に自信をなくなったとき。
		母	5	育児を一人でしているため。夜泣きがひどくもう嫌だと思ふとき。自分の育児を理解されないとき。
5	自分の行動・健康・存在	父	0	
		母	6	上手くいかないとき、自分はなぜうまくいかないのかと思う。感情的に怒った後。余裕がないとき。
6	自分の育児への批判	父	0	
		母	1	実母に自分の育児を否定されたとき。
8	パートナーの育児行動	父	1	妻が子にキレているとき。
		母	0	

No	事情	件数	むなしさ	
1	子の行動	父	0	
		母	6	作ってくれたご飯を食べてくれない。子の希望を叶えようとしたが、訴えが変わったとき。言っていることが伝わらないとき。
4	自分の育児行動	父	8	出張で育児が行えないとき。もっと育児に参加したい。仕事が遅いと寝顔しか見れない。母親の存在にはかなわないとき。家でイヤな事があったとき。
		母	1	一人で育児をしているため。
5	自分の行動・健康・存在	父	2	想いが伝わらないとき。妻のためにしたことが否定されたとき。
		母	2	ふとむなしくなる。育児に専念していて子の反応が薄いとき。
10	社会からの孤立	父	0	
		母	4	一人で家にいると話し相手もおらず社会から孤立した気になる。働けないため社会から孤立している気がする。
11	育児と家事・仕事などの両立	父	0	
		母	1	仕事と育児を両立しているが、どちらも中途半端になっているのではと思うとき。
12	育児環境・社会の対応	父	1	会社でイヤな事があったとき。
		母	0	

No	事 情	件数	不 満	
1	子の行動	父	3	口が悪いとき。子が父より母を褒めるとき。習い事の練習を怠り、その後の予定がズレるとき。
		母	4	注意しても伝わらないとき。これが出来る子だったらと思う事がある。ご飯を食べない、起きないとき。
4	自分の育児行動	父	0	
		母	2	子育てが思い通りいかない。一人で頑張っている気がする。
5	自分の行動・健康・存在	父	2	自分の時間が制限されるとき。自分自身に対して。
		母	5	自由に出歩けない。自分の時間がない。
6	自分の育児への批判	父	2	妻に自分の育児を否定さるとき。会社の人が自分の育児を否定してくるとき。
		母	0	
7	パートナーの存在・行動	父	0	
		母	9	夫の休日の使い方。夫が家事育児をするとき手伝って感じるを出してくるとき。夫の家事育児の仕方が自分の期待通りではないとき。
8	パートナーの育児行動	父	0	
		母	7	夫が子の面倒が見切れないと、任せてくるとき。夫の優先度が育児より自分のとき。子との時間をもっと持ってほしい。
9	夫婦での育児行動	父	0	
		母	1	自分と夫との育児が平等ではない。
11	育児と家事・仕事などの両立	父	0	
		母	1	仕事と育児の両立について。
12	育児環境・社会の対応	父	2	職場に対して。社会に対して。
		母	3	保育園がみつからない。社会や周囲の理解がないこと。

環境」であった。「パートナーの存在」では、パートナーが相談相手になる、協力的であることによる安心であった。また、「同居外親族の存在」、「育児環境」でも、親や友人が相談相手になる、子の登園施設や自らの職場の理解があることへの安心であった。

「希望」では、父親、母親ともに「子の成長」に関する記述が多く、子の成長を感じたときや、子が将来の夢を語ったことへの希望であった。また、父親のみ記述が多かった項目は「子の行動」であり、子の遊んでいる姿や習い事の様子による希望であった。

「愛情」では父親、母親ともに「子の行動」、「子の存在」、「家族の存在」についての記述が多かった。「子の行動」では、子の笑顔を見たときや子に甘えられることによる愛情が多かった。「子の存在」、「家族の存在」では、子または家族の存在そのものに愛

情を経験していたが、特に母親の「子の存在」では、イライラすることがあっても、子の存在そのものに愛情を感じるという記述が多かった。

「喜び」では、父親、母親ともに「子の行動」、「子の成長」に関する記述が多かった。「子の行動」では、子の笑顔が見られることへの喜びが多く、これは「愛情」の同項目と同様の傾向があった。「子の成長」では、子が日を追うごとにできる事が増えることへの喜びが多かった。

「感謝」では、父親、母親ともに「子の存在」、「パートナーの育児」に関する記述が多かった。「子の存在」では、子がいることで新たな気づきや経験ができることや、自己成長ができるといった感謝が多かった。「パートナーの育児」では、パートナーの育児行動そのものへの感謝が多かった。また、母親のみ記述が多

乳幼児を育てる父親と母親の育児中に経験する感情と育児信念に関する研究

Table 4 ネガティブな感情別の自由記述内容

No	事 情	件数	安 心
1	子の行動	父 8	寝顔を見たとき。気が強いところ。年下に教えている姿を見たとき。自分や妻のそばにるとき。自分に寄り添ってくるとき。
		母 14	父親と仲良く過ごしているとき。素直な言葉が聞けたとき。のびのびと遊んでいるとき。自分の愛情が伝わっていることが実感できる行動を取ったとき。機嫌が良いとき。保育園での出来事を楽しそうに話しているとき。笑顔や寝顔を見たとき。
2	子の成長・将来	父 4	子ども自身が自分でできる事が増えたとき。順調に育っていると感じたとき。良い子に育つだろうと感じたとき。
		母 4	子ども自身が自分でできる事が増えたとき。順調に育っていると感じたとき。
3	子の存在・健康	父 5	子のぬくもりを感じたとき。子の存在そのもの。子が健康であるとき。
		母 1	子どもを抱いたとき。
6	パートナーの存在・行動	父 2	妻が子のそばにいてくれるとき。
		母 9	夫がいてくれるとき。夫に相談できるとき。夫の存在そのもの。夫が自分の体調や都合に合わせてくれるかとき。夫が協力的、考えがしっかりしているから。
7	パートナーの育児行動	父 2	妻が育児を楽しくやっている。妻が育児をしっかりやっている。
		母 4	夫が育児をしてくれる。休日は夫が育児をしてくれる。夫が子のことを優先にしてくれる。
8	夫婦での育児行動	父 0	
		母 1	夫と協力して育児・家事をやっていると実感したとき
9	家族の存在・行動・成長	父 6	仕事から帰宅して家族に会えたとき。家族の寝顔を見た時。スキンシップをしているとき。
		母 14	家族団らんな時間を過ごしているとき。家族が健康なとき。家族の寝顔をみたとき。家族の存在そのもの。緊急時に家族が側にいてくれるとき。家族が話を聞いてくれるとき。
10	同居していない家族の存在・行動	父 0	
		母 3	自分の親がいること。母親が相談相手になったり協力してくれる。
11	育児環境・社会の対応	父 0	
		母 6	子育てをしている友人に相談できるとき。保育園や幼稚園がこちらの都合を受け入れてくれるとき。職場が育児を子どものことを優先させてくれるとき。
13	安定した暮らし	父 1	全てのこと。
		母 2	衣食住に困らないから。

No	事 情	件数	希 望
1	子の行動	父 6	習い事の様子から。遊んでいる姿を見たとき。子の行動そのもの。意思の強さを感じたとき。他者への振舞い方を見たとき。
		母 0	
2	子の成長・将来	父 17	成長の成長を感じたとき。
		母 39	子が将来の夢を語ったとき。子の成長を感じたとき。勉強好きな一面を見たとき。子の成長を想像したとき
3	子の存在・健康	父 1	自分の子の存在そのもの。
		母 0	
5	自分の行動・健康・存在	父 0	
		母 1	自分自身の成長について。
6	パートナーの存在・行動	父 0	
		母 2	家族の存在そのもの。
13	安定した暮らし	父 1	全て。
		母 0	

No	事 情	件数	愛 情
1	子の行動	父 11	自分に甘えてくるとき。子が人形の世話をしたり、遊んでいる姿をみたとき。寝顔や笑顔を見たとき。微笑みあったとき。
		母 21	可愛らしい声が聞こえたとき。可愛い表情や寝顔、笑顔を見たとき。子が嫌な思いをした後に自分に抱き着いてくるとき。行動そのものや一所懸命な姿を見たとき。自分に甘えてくるとき。自分に一番心を許しているとき。手をつなぐなど触れ合うとき。傍にるとき。「ママ」と走ってくる時。他人が、幼い我が子に気が付いて、親切にしてくれるとき。
2	子の成長・将来	父 2	健やかな成長を願うとき。
		母 1	言葉が増えたり成長を感じたとき。
3	子の存在・健康	父 6	子に何かされても存在そのものが可愛いと感じたとき。子からも愛情を感じたとき。寝かしつ等子の世話をしているとき。
		母 18	イライラすることがあっても子の存在自体がかわいいと感じたとき。無償の愛を教えてくれたとき。子の存在そのもの。子を抱いていると、他人が荷物を持ってくれたり親切にしてくれたとき。
4	自分の育児行動	父 2	まだ言葉を話せなくても、コミュニケーションをとっているとき。
		母 3	授乳中など子の世話をしているとき。手をつないでいるとき。
6	パートナーの存在・行動	父 1	妻への愛。
		母 1	夫の寝顔を見たとき。
9	家族の存在・行動・成長	父 7	妻や子にいつも愛情を持っている。
		母 7	家族で過ごしているとき。最終的には愛おしいと思う。家族のことを最優先して行動しているとき。

No	事 情	件数	喜 び
1	子の行動	父 5	子の笑顔を見たとき。子が祖父母に会って嬉しそうにしていたとき。自分の呼びかけに、笑顔で返答してくれたとき。
		母 9	子の機嫌が良いとき。作った食事を美味しく食べてくれるとき。遊びに連れていき、はしゃいで喜んでくれたとき。自分の一番の味方でいてくれるとき。笑顔を見たとき。あやすと笑顔になるとき。

No	事 情	件数	喜 び
2	子の成長・将来	父 15	新しいことができるようになったとき。子が自身でできる事が出来るようになったとき。
		母 28	子が自身でできる事が増えたとき。成長そのもの。自分が知らない歌や言葉話すなど違う一面を発見したとき。子の思いやりの心を感じたとき。子が自分をほめてくれるようになったとき。背が伸びたり体の成長を感じたとき。習い事でできる事が増えたとき。
3	子の存在・健康	父 4	子の存在そのもの。一緒に過ごしているとき。
		母 7	子の存在そのもの。無事に生まれてきてくれたこと。子が健康でいてくれること。
4	自分の育児行動	父 0	
		母 1	自分が女性に生まれて、子を無事に育てることができたこと。
5	自分の行動・健康・存在	父 0	
		母 2	自分にママ友達ができたと。自分の仕事で達成できたときややりがいを感じたとき。
8	夫婦での育児行動	父 1	小さなことでも二人で成長を分かち合える。
		母 1	夫と子と成長を分かち合えること。
9	家族の存在・行動・成長	父 1	たわいもない会話をするととき。
		母 2	家族の笑顔が見れたとき。家族と一緒に過ごせるとき。

No	事 情	件数	感 謝
1	子の行動	父 0	
		母 8	お手伝いをしてくれるようになったこと。仕事の疲れがあっても子の笑顔を見たとき。子が甘えてくるとき。自分が仮眠しやすいうちに気を配ってくれるとき。子が自分の心配をしてくれるとき。元気に登園してくれるとき。
3	子の存在・健康	父 8	子の存在が大切なものに気が付かせてくれる。子がいることで家庭が明るくなった。子の存在で会話が増えた。子の存在で自己成長ができた。子が元気でいてくれること。子の存在で活力が沸く。子がいることで自然と笑顔になれる。子が元気でいること。
		母 18	自分の幼少期は親不孝だったことに気付かせてくれる。子どもの存在そのもの。不妊治療を経て生まれたため。育児を通し自分に自信をつけてくれたため。子どもを産んで初めて経験できることが沢山ある。母親にしてくれた。ママ友を作ることができたとき。子がいることで行った事のない所にいったとき。自分の人間としての幼なさに気付かせてくれる。子を通して、自分と夫の親の大変さを理解できた。癒しを与えてくれる。生まれてきてくれてありがとう。病氣から回復してくれたとき。
6	パートナーの存在・行動	父 4	妻の存在そのもの。
		母 13	夫の存在そのもの。夫が協力的だったとき。夫が家事をやってくれるとき。
7	パートナーの育児行動	父 7	自分が仕事の間、育児を一人でやってくれる。妻が家事・育児をやってくれる。妻の子に対する関わり方をみたとき。
		母 10	夫が育児に協力的だったとき。
8	夫婦での育児行動	父 1	緊急事態を妻と二人で乗り越えられたとき。
		母 0	
9	家族の存在・行動・成長	父 0	
		母 1	子育てを通して家族の存在の有難さを感じる。
10	同居していない家族の存在・行動	父 1	自分の母親の存在。
		母 12	両親が育児・家事に協力してくれる。両親の存在そのもの。育児で疲弊したとき、自分の親も苦労したと感謝する。
11	育児環境・社会の対応	父 0	
		母 8	育児を優先させてくれる職場に対して。保育園がサポートしてくれる。保育園が延長保育を受け入れてくれる。友人が育児をサポートしてくれる。

No	事 情	件数	同 情
1	子の行動	父 6	子の無力さを感じたとき。転んだり、泣いている姿を見たとき。TVや遊びを止めさせるとき。
		母 6	子が泣いているとき。まだ話せないため、なぜ泣いているか、笑っているか自分が感じ取るとき。子の取った行動が仕方がない理由によるものだとしても正さなくてはいけないとき。思いを上手く表現できず、手が出てしまう子に対して。上手くできず失敗をする子に対して。
2	子の成長・将来	父 2	ペースを合わせてあげるとき。自分に似た性格によって失敗しているところを見たとき。
		母 1	身体的な発達がゆっくり。
3	子の存在・健康	父 0	
		母 1	体にケガの傷が残っているとき。
6	パートナーの存在・行動	父 0	
		母 2	疲れているだろう夫に対して。
7	パートナーの育児行動	父 5	妻が母乳のなやみがあるとき。妻が育児と仕事の板挟みになっているとき。夜中でも授乳をしているとき。
		母 2	平日は子の寝顔しか見られない夫。言う事をきかない子に対して、イライラする夫に対して。
10	同居していない家族の存在・行動	父 0	
		母 1	両親の存在そのもの。
11	育児環境・社会の対応	父 1	職場の育児をする男性に対して。
		母 8	他の母親がぐずる子に困っているとき。ママ友との会話の内容。同じように子育てをする父親・母親の存在。事件・災害・犯罪などに子が巻き込まれた母親。自分も同じような経験があるが、子が授かりにくい母親。子どもが巻き込まれる事件・事故・犯罪。

No	事 情	件数	誇 り
1	子の行動	父 5	積極に新しいコミュニティに溶け込んでいく子の姿。子の寝顔を見て家庭を築けたことを実感する。良い子だから。子の挑戦的な姿勢。妻や周囲に優しい行動を取っている子を見てたとき。
		母 1	子が友達に優しく接しているとき。
2	子の成長・将来	父 0	
		母 1	子がのびのびと育っているところ。

乳幼児を育てる父親と母親の育児中に経験する感情と育児信念に関する研究

No	事 情	件数	誇 り
3	子の存在・健康	父	0
		母	15 まだ子のいない方に比べるとすごい経験が出来ていると思う。自慢の子。他人に子が褒められたとき。他人にかわいい子と言われたとき。他人にしつげができてると言われたとき。子が生まれてから子の存在が一番になった。子の性格が誇らしい。
4	自分の育児行動	父	2 それなりに育児をしていること。父親になったということ。
		母	9 初めての出産・育児を、周囲をあまり頼らずできている自分に対して。子の検診や節目にこまめによく頑張ったと自分を思う。完璧を求めずにこれで良いと思っていること。子を産み育てていること。母親であるということ。平日できない分、週末に公園に連れていくこと。
5	自分の行動・健康・存在	父	3 生活レベルを維持していること。仕事のこと。日曜大工を褒められたこと。
		母	0
7	パートナーの育児行動	父	1 子育てをしっかりとやってくれる妻の存在。
		母	1 協力的で信頼できる夫がいること。
8	夫婦での育児行動	父	1 夫婦2人で育児を楽しめているとき。
		母	0
9	家族の存在・行動・成長	父	0
		母	1 家族を持てたということ。
10	同居していない家族の存在・行動	父	0
		母	1 自分の母親に対して、自分の育児をしてくれたから。
12	育児と家事・仕事などの両立	父	1 仕事と子育てを両立していると思えたとき。
		母	3 子育て・仕事・家事の両立。家事と育児の両立。

かった項目として「子の行動」、「同居外親族の存在」、「育児環境」があった。「子の行動」では、子の笑顔や思いやりのある行動への感謝が多かった。「同居外親族の存在」では、育児に協力的な両親の存在そのもの、「育児環境」でも、育児に協力的な友人や理解のある自分の職場への感謝が多かった。

「同情」では、父親、母親ともに「子の行動」に関する記述が多く、子が自分の訴えを上手く表現できないといった発達途上特有の行動への同情が多かった。また、特に母親の記述が多かった項目は「育児環境」であり、他の母親の経験に対する同情があった。一方、特に父親の記述が多かった項目は「パートナーの育児」であり、母親の育児と仕事の両立や授乳に関する母親特有の育児行動への同情であった。

「誇り」では、父親、母親の両者ともに記述が多かつ

たという項目はみられなかった。しかし、特に母親の記述が多かった項目は「子の存在」、「自分の育児」であった。「子の存在」では、子の存在そのものに加え、他人に子が褒められることによる誇りが多かった。「自分の育児」では、自分の育児方法に対する誇りが多かった。一方、特に父親の記述が多かった項目は「子の行動」であり、子の積極的な行動に対する誇りを感じるという記述が多かった。

5. 育児信念

(1) 父親の育児信念 (Table5)

育児信念に対する考え方で賛成が過半数を示していた項目は「価値 (89.8%)」、「無償 (77.6%)」、「愛情 (77.6%)」であった。一方、反対が過半数を示していた項目は「役割 (83.7%)」、「完璧 (63.3%)」、「努力

Table5 父親の育児信念に対する考えとその不変性

n=49

信念項目	考えと普遍性	賛成 (%)	反対 (%)	変わらない (%)	変わる (%)
完 璧		4.1	63.3	67.3	0.0
無 償		77.6	8.2	81.6	4.1
努 力		12.2	61.2	71.4	2.0
価 値		89.8	0.0	89.8	0.0
役 割		2.0	83.7	85.7	0.0
愛 情		77.6	10.2	87.8	0.0

Table6 母親の育児信念に対する考えとその不変性

n=52

信念項目	考えと普遍性	賛成 (%)	反対 (%)	変わらない (%)	変わる (%)
完 璧		5.8	75.0	75.0	5.8
無 償		69.2	19.2	86.5	1.9
努 力		19.2	53.8	73.1	0.0
価 値		96.2	0.0	96.6	0.0
役 割		1.9	86.5	86.5	1.9
愛 情		55.8	25.0	78.8	1.9

(61.2%)」であった。また信念の不変性は、全ての項目においてほとんどの父親が「変わらない」と回答しており、その割合は平均80.6%、最大は「価値」の89.8%、最小は「完璧」の67.3%であった。

(2) 母親の育児信念 (Table6)

育児信念に対する考え方で賛成が過半数を示していた項目は「価値 (96.2%)」、「無償 (69.2%)」、「愛情 (55.8%)」であった。一方、反対が過半数を占めていた項目は「役割 (83.7%)」、「完璧 (63.3%)」、「努力 (61.2%)」であった。また、信念の不変性は、全ての項目においてほとんどの母親が「変わらない」と回答しており、その割合は平均82.6%、最大は「価値」の96.6%、最小は「努力」の73.1%であった。

(3) 父親と母親の育児信念の比較

育児信念について、賛成が過半数を示した項目は父親、母親ともに「価値」、「無償」、「愛情」であった。また、父親と母親の育児信念の賛否についてPearsonのX²検定を行ったところ、いずれの項目においても優位な差は認められなかった。次に、育児信念の不変性は、育児信念に対する賛否に関わらず、全ての項目で約7割以上の父親と母親は「変わらない」と回答した。また、「変わらない」との回答を得た割合が最大だった項目は、父親、母親ともに「無償」であり、最小だった項目は、父親は「完璧」、母親は「努力」であった。

考 察

1. 育児中に経験する感情

育児中に経験するネガティブな感情とポジティブな感情の頻度について、父親と母親はほぼ同様の傾向を示した。9項目あるネガティブな感情のなかで「疲れ」、「イライラ」などは多い傾向にあり、「悲しみ」、「むなしさ」などは少ない傾向にあった。また、7項目あるポジティブな感情のなかで「愛情」、「喜び」などは多い傾向にあり、「同情」、「誇り」などは少ない傾向にあった。このネガティブな感情とポジティブな感情の結果をそれぞれ、高頻度項目群と低頻度項目群に二分して捉え、先行研究と比較した。ネガティブな感情について、清水 (2006) の父親を対象とした研究の結果と、本研究の父親と母親の高頻度項目群と低頻度項目群の項目内容は、類似した結果となった。一方、ポジティブな感情について、清水 (2008) の父親を対象とした研究では、「同情」、「誇り」が多く、「愛情」、「喜び」が少ない傾向があり、本研究の父親と母親の高頻度項目と低頻度項目の項目内容とは逆転していた。しかし、清水・伊勢 (2006) の母親を対象とした研究の項目内容とはほぼ一致した。これらは、問題と目的で述べたように、家庭を重視する男性の割合が増えてきたことによる結果といえるかもしれない。

2. 育児中に経験する感情別の事情内容

育児中に経験する感情の事情内容を分析したところ、ネガティブな感情、ポジティブな感情ともに「子の行動」、「子の成長」、「自分の育児」などの項目が共通して挙げられた。

ネガティブな感情特有の項目として「自分の育児への批判」、「社会からの孤立」が挙げられた。特に「自分の育児への批判」では、母親に比して父親の記述が多かった。父親のネガティブな感情の記述を総合してみると、子と過ごす時間の確保を心掛けたり、寝顔しか見られないことをむなしく感じるといった記述が複数みられた。また、本研究の父親の勤務形態は全員がフルタイムであった。これらのことから、父親はフルタイムで仕事をしながら自分なりに育児行動を行っている、または、行動したいと思っているが、その現状を周囲に認めてもらえないという状況下において、ジレンマを抱えていることが推測された。次に、「社会からの孤立」の項目は、母親のみ記述があった。母親のネガティブな感情の記述を総合してみると、1人で子育てをする時間が多いという記述が多く、育児に専念することで他者と関わる時間が減り、孤立感を感じることがあることが推測された。

一方、ポジティブな感情特有の項目は「家族の存在」、「同居外親族の存在」が挙げられ、特に母親による記述が多かった。

これらのことから、育児中の感情は、自分と子の二者関係ではなく、他者が加わることによってポジティブな感情が得られやすいことが推測された。

3. 育児信念

父親と母親の育児信念に対する考え方とその不変性は、同様の傾向を示し、賛成が過半数を示していた項目は「価値」、「無償」、「頻度」であり、育児信念の不変性は、全ての項目で約7割以上の父親と母親が「変わらない」と回答した。この結果は、清水 (2003, 2006) の父親と母親を対象とした研究を支持する結果となった。

4. 総合考察

本研究により、現代の変化しつつある育児環境において、父親と母親は不変性のある類似した育児信念があることが明らかとなり、さらに育児中の感情は、父親、母親ともに他者の肯定的な関わりがあることで、ポジティブな感情を得る経験が増える可能性が示唆された。

これまでの、育児中に経験する感情についての先行研究は、父親と母親の両者を同時に調査した研究は多いとはいえない。今回、本研究で父親と母親を同時に調査し、新たな知見を得たことは、父親と母親がともにポジティブな感情を経験しながら、肯定的に育児を

行うことへの一助となり、育児を支援する専門職にとっても有用な結果となるだろう。

今後の課題

本研究は、乳幼児を育てる父親と母親への調査を行った。しかし、調査対象者の居住地域や育児に関するコミュニティへの参加の有無など、生活背景には偏りがある可能性が考えられる。また、子の生活年齢や性格・行動特徴によって育児行動の内容も異なると考えられるが、今回はその検討は行わなかった。今後は、さらに対象者の属性の統制をし、加えてインタビュー調査を行うことで、より詳細な研究を継続していく。

引用文献

厚生労働省(2016). 改正育児・介護休業法参考資料集.
内閣府広報室(2016). 男女共同参画社会に関する世論調査.
内閣府大臣官房政府広報室(2002). 男性のライフサイクルに関する世論調査.
日本労働研究機構(2003). 育児や介護と仕事の両立に関する調査.
村上京子・飯野英親・塚原正人・辻野久美子(2005). 乳幼児を持つ母親の育児ストレスに関する要因の

分析 小児保健研究, 64, 425-431.

西尾 新(2015). 父親の育児行動の頻度及び父親に育児行動に対する父母間の評価の咀嚼が母親の育児ストレスに与える影響 甲南女子大学研究紀要, 51, 75-88.

尾形和男・宮下一博(2003). 母親の育児行動に及ぼす要因の検討—父

親の協力的関わりに基づく夫婦関係, 母親のストレスを中心にして千葉大学教育学部研究紀要, 51, 5-15.

岡本絹子・中村裕美子・山口三重子・奥山則子・標美奈子ら(2002). 乳幼児をもつ母親の疲労感と父親の育児参加に関する研究 小児保健研究, 61, 692-700.

清水嘉子・伊勢カンナ(2003). 母親の育児に対する信念と育児ストレスに関する研究小児保健研究, 62, 558-568.

清水嘉子(2003). 母親の育児幸福感と育児事情の実態 母性衛生, 47, 344-361.

清水嘉子(2006). 父親の育児ストレスの実態に関する研究 小児保健研究, 65, 26-34.

清水嘉子(2008). 父親の育児幸福感—育児に対する信念と関係— 母性衛生, 48, 559-567.

—2018.1.29受稿, 2018.3.2受理—

The Study of Feelings and the Child Care Faith when Father and Mother Bring up Infants.

Yuiko KONDO (*Graduate School of Psychology Tokyo Seitoku University*)

Mari NAKAMURA (*Tokyo Seitoku University*)

It is an investigation about feelings and the child care faith when parents bring up infants. The negative feelings had many "fatigue" and "irritation", but there were few "sorrow" and "emptiness". On the other hand, the positive feelings had many "love" and "joy", but there were few "sympathy" and "prides".

The contents which experienced negative feelings and positive feelings had 13 items each. In addition, father had much "criticism to child care" that was an item peculiar to negative feelings, and, as for "the isolation from the society," only mother had a description. Mother had many "existence of the family" and "existence of the relative who did not live together" in an item peculiar to positive feelings. The child care faith of parents was similar. The parents who brought up infants resembled it in feelings and child care faith. However, because a child care method was not accepted, father had dilemma, and it was suggested that mother who devoted herself to child care alone got a sense of separateness. On the other hand, it was suggested that I could experience positive feelings by the affirmative relation of others.

Keyword: father, mother, infants, emotion during child rearing, child care faith

Bulletin of Clinical Psychology, Tokyo Seitoku University
2018, Vol. 18, pp. 39-52